

厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
（分担）研究報告書

医師の労働時間短縮のための手法に関する検討

研究分担者 武富 紹信 北海道大学大学院消化器外科 I 教授

研究要旨

長時間労働が予想される大学勤務外科医師の労働時間について検討した。大学病院勤務外科医師の平均年間超過勤務時間数は 532.8 時間（学外勤務時間を除く）であり、さらに役職別および専門分野別に異なることが明らかとなった。

A. 研究目的

良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の改正により、2024年4月から医師に対する時間外労働の上限規制の適用が開始される。その対応策として医師労働時間短縮計画を作成する必要があり、医師の労働時間の正確な把握が必要となっている。今回、労働時間短縮計画の礎とすることを目的とし、長時間労働が予想される大学病院に勤務する外科医師の超過勤務時間を1年間にわたって検証した。

B. 研究方法

大学病院消化器外科に勤務する26名の外科医師（男性24名、女性2名。スタッフ医師(准教授、講師、助教)11名、医員8名、専攻医7名）について、年間超過勤務時間数を調査した。

C. 研究結果

平均年間超過勤務時間数は532.8時間（最小208.5～最大838.1）であった。役職別の平均年間超過勤務時間(hrs)はスタッフ 435.4:医員 510.8:専攻医 711.1であった。一方、専門疾患別（専攻医を除く19名が対象）では、消化管(n=6)374.4:小児(n=3)384.4:肝胆膵・移植(n=10)494.9であった。

D. 考察

スタッフ、医員、専攻医と若手になるほど超過勤務時間は延長していた。ただし、A水準（年960時間）を超える者はおらず、学外労働時間を加えても、労働時間短縮計画を綿密に策定することで大学勤務外科医師でもA水準に到達できる可能性が示された。一方、肝胆膵外科

や移植外科などの長時間手術が多い専門分野に従事する外科医師は超過勤務時間が長い傾向にあり、専門性を加味した労働時間短縮計画が必要であることがわかった。

E. 結論

大学病院勤務外科医師の学外勤務時間を除く平均年間超過勤務時間数は532.8時間であり、役職別および専門分野別に異なることが明らかとなった。

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

